

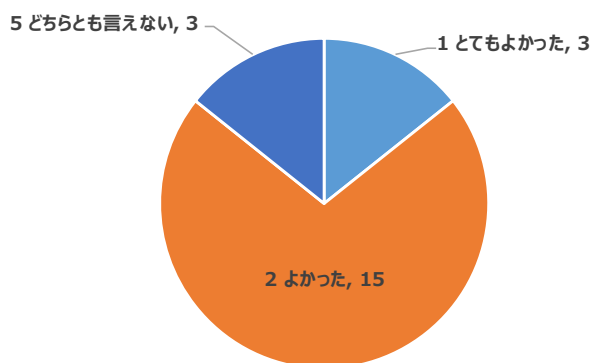
■ 与謝野町事務事業評価アンケート結果（評価者編） ■

回答者 21 人

その 1 事務事業評価への参加について

【設問】（１）事務事業評価二次評価に参加してよかったですか？以下の選択肢にひとつ○をしてください。

- 1 とてもよかった 3 人
- 2 よかった 15 人
- 3 あまりよくなかった 0 人
- 4 よくなかった 0 人
- 5 どちらとも言えない 3 人



【回答に対する意見】

○とてもよかった/よかった

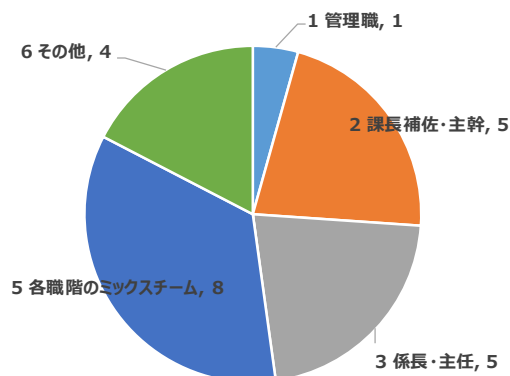
- 他課の事業における課題に関わることができたから（ほんの少し、与謝野町ワンチームに近づけた感を持つことができた）
- 良かったと思わなければこれだけの時間拘束は容認されるべきではない。
- 他課の業務の詳細な内容は通常では知る機会がほとんどないため、視野を広げる機会になった。
- 自分とは異なる視点に触れることはよい勉強になる。名前しか知らない事業の内容がわかる
- 全課の事業を見ることにより、施策連携について考えるきっかけになったから。
- 他課の業務の状況や課題を知ること、各課との業務の連携について考えるきっかけとなったため。
- チームのファシリテータとメンバーの評価・意見も非常に勉強になった。
- 評価が 2 年目ということもあるが、評価者を課長補佐・主幹を中心に構成されたことにより、評価者の経験・見識のレベルが上がり、適切な問題提起や議論ができたと思う。

○どちらとも言えない

- 自己研鑽という観点からは良いと思うが、これまでのプロセスを含めて職員の負担軽減が必要と考える。
- 各課の状況や問題点など知る機会が出来たことは良かったが、今後更に職員の業務負担の増大が見込まれる中で、更に職員の負担軽減を考慮しながら実施していく必要がある。

【設問】（２） 今年度は課長補佐・主幹を中心に評価者として参加いただきました。次年度はどのようなメンバー構成が望ましいですか。以下の選択肢にひとつ○をしてください。

- 1 管理職 1人
- 2 課長補佐・主幹 5人
- 3 係長・主任 5人
- 4 若手職員（20代、30代） 0人
- 5 各職階のミックスチーム 8人
- 6 その他 4人



【回答に対する意見】

○管理職

- 昨年度が、係長・主任、今年度が、課長補佐・主幹だったので、色々な立場で、色々な角度から評価者として事務事業評価を経験してみたいと思う。

○課長補佐・主幹

- 役職として、係や課を超えた責任感が一番芽生えやすい時期・視野が広がりやすい時期だと思えるから
- 削減、変化をもたらすには、ある程度の役職と発言が必要とおもいます。
- 事務事業評価を職員の意識改革や人材育成につなげていくことを重視するのであれば、若い世代中心メンバーが良いと思いますし、ある程度スピーディに的確な意見が出る可能性を求めるとすれば2以上。選択肢も変わると思います。どれを選択しても一長一短あるという感覚です。
- ある程度役場のシステムが理解できる者

○係長・主任

- 事務事業を職員研修の一環として人材育成につなげていくというイメージであるのなら、次世代を担う係長・主任メンバー構成が良いと思いますが、何を重視していくのかによって構成は変わると思います。
- 中間の立場であり、実務の実質的エンジンなので。

○各職階のミックスチーム

- 本来業務でなくても、事業に対する目的意識などが共有でき、相互において考え方や大切にしていること等への理解につながる。（他課職員とのそういった機会は少ない。）また、ひとりでも職員の資質向上のきっかけになれば、人材育成につながる場としても有効だと感じる。
- 課長補佐・主幹級をベースにし、主任・係長級とのミックス。（概ね現体制）若手職員は、説明側の立場で参加する（シート作成や事業説明）ことで、自身が関わっている事務事業への理解がより深まる。
- 人材育成として評価側もいろいろな職員が関わった方がよいと思うため。
- いろいろな職員に参加してもらったほうがよいと思うため。
- 他課の業務や担当者の思いを知ることが意識改革にも繋がると思うので、多くの職員が経験できればと思う。
- 今年度は評価者を課長補佐・主幹を中心に構成されたことにより、評価者の経験・見識のレベルが上が

り、適切な問題提起や議論ができたと思うが、人材育成的側面を考えると、各職階のミックスも必要と思われる。しかし、評価そのものの水準・精度を上げるのなら、専任の評価者を選任すべきと思う。

➤ミックスだが主任、係長クラスメインがいいと思う。将来を見据えて、係長・主任クラスが一番意識改革が必要であると感じるため。

○その他

➤多角的な視点で丁寧に議論するやり方で継続実施するのであれば今回と同じでよいのでは？評価⇒実行のスピードを重視するのであれば、企財⇔担当課でよいのでは？

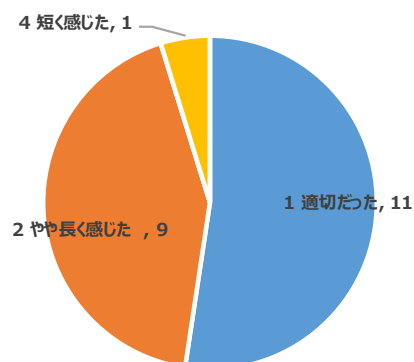
➤他課所管事業について知ることができ、事務事業評価について考える機会になると思うので、今までにないグループ分けでしてみるのも良いのではと思います。

➤課長補佐・係長のチーム。次世代の中心職員であり、若すぎず見識もある。

その2 事務事業評価の内容について

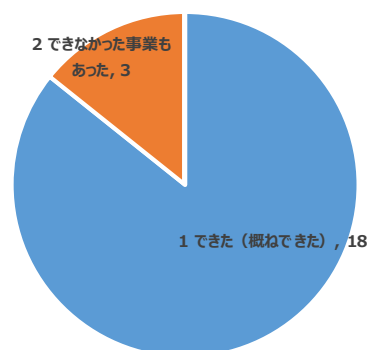
【設問】(1) 1つの事務事業に対して評価の時間(約40分)は適切でしたか？以下の選択肢にひとつ○をしてください。

- 1 適切だった 11人
- 2 やや長く感じた 9人
- 3 とても長く感じた 0人
- 4 短く感じた 1人
- 5 とても短く感じた 0人



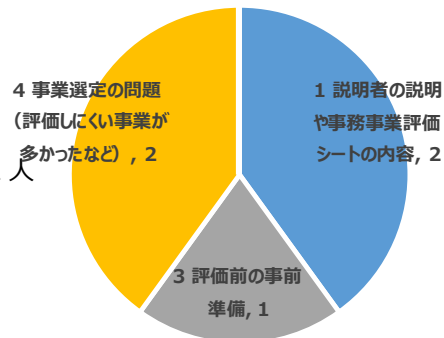
【設問】(2) 全体を通して説明者と十分な意見交換ができましたか？

- 1 できた(概ねできた) 18人
- 2 できなかった事業もあった 3人
- 3 全体的にできなかった 0人



【設問】（3）（2）について、2、3と回答された場合、その理由として考えられるものはなんですか？（複数回答可）

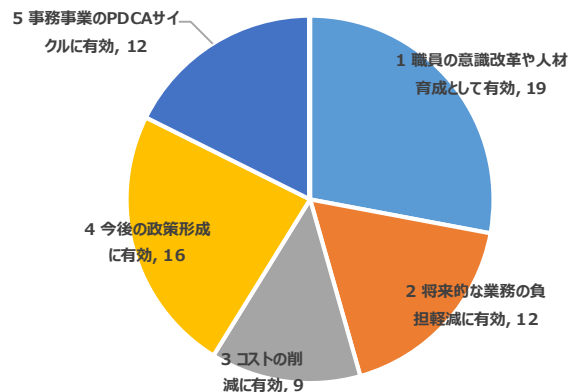
- 1 説明者の説明や事務事業評価シートの内容 2人
- 2 ファシリテーター（事務局職員）の進行 0人
- 3 評価前の事前準備 1人
- 4 事業選定の問題（評価しにくい事業が多かったなど） 2人
- 5 その他 0人



その3 事務事業評価の有効性について

【設問】（1） 事務事業評価は有効だと思いませんか？有効で今後も力点を置くべきと思うことを以下の選択肢から選んで○をしてください（複数回答可）

- 1 職員の意識改革や人材育成として有効 19人
- 2 将来的な業務の負担軽減に有効 12人
- 3 コストの削減に有効 9人
- 4 今後の政策形成に有効 16人
- 5 事務事業のPDCAサイクルに有効 12人
- 6 選択肢以外のことにも有効 0人
- 7 有効なことではない 0人

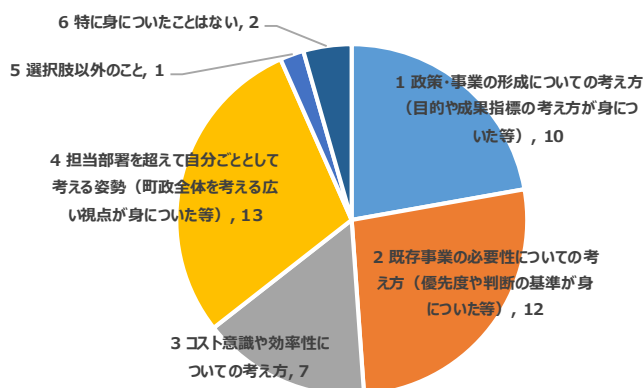


【設問】（2） 事務事業評価に参加して、身についたことはありますか？以下の選択肢に○をしてください（複数回答可）

- 1 政策・事業の形成についての考え方（目的や成果指標の考え方が身についた等） 10人
- 2 既存事業の必要性についての考え方（優先度や判断の基準が身についた等） 12人
- 3 コスト意識や効率性についての考え方 7人
- 4 担当部署を超えて自分ごととして考える姿勢（町政全体を考える広い視点が身についた等） 13人
- 5 選択肢以外のこと 1人
- 6 特に身についたことはない 2人

※5の内容

- 予算があれば解決できるところ、
ない中で職員がよく努力されていることが分かりました。



その4 次年度以降の改善点・意見

【設問】(1) 次年度に改善すべき点等があれば教えてください。

- 最初の担当者説明は不要。何か取組意欲が沸く方法はないものか。課題や問題点を見つけ、改善を図った組織や職員が評価される仕組みの検討。人事評価制度との連携？
- 冒頭、説明者の朗読は不要かもしれない。
- 担当説明者は、指定した箇所（必要な所）の説明だけにすれば、より時短に繋がると思われる。他市町村の実施事例も取り入れつつ、トライアルアンドエラーを繰り返して、町独自のシステムとして構築するしか方法がないと思います。
- 大変ですが、評価者にいただいた意見や指摘等に対するPDCAの仕組みづくり。
- 長期的な取り組みではあるが、短期的にも見える成果があれば・・・
- Aチーム評価員にとっては、その他の業務として携わっているので、何らかの評価があってもいいかもしれない。（かなりの時間数を取っている）
- 説明者について課長と担当者であったり、担当者だけであったりばらつきがあるので、統一した方がいいように感じました。
- 事前準備の負担が大きい場合あり。事前質問だけ伝えておけばいいのでは？資料は担当課の判断で準備すればいいのでは？
- 事務事業評価シートの記入の仕方が担当者によりばらつきがあるので、もう少し統一ができないかと思いました。
- 評価対象としている事業単位を細事業にせず、関連事業の全体像が見えるような工夫が必要と考える。
- 難しいとは思いますが、できるだけ外部評価を増やし、町民目線に近い委員から評価をしていただいたほうがよいと思います。
- 細事業の見直し（予算を伴わない事務事業の捉え方の見直し）

- 事務事業評価シートへの記入が難しい事業の書き方（一次評価欄とか）
- アウトカムの設定がばらついている。シートの書き方も温度差がある（取組方にも温度差があると感じる）。

【設問】（２）事務事業評価に関するご意見・感想がありましたらご記入ください。

- 各事業の「ブラッシュアップ」の切っ掛けにすべく、さらに続けるべきだと思います。
- 評価された事業について変化がなくては意味が無いと考えます。その後の対応と見直しができているかも必要であり、その先の対応も考え削減、圧縮、状態維持が見れば良いのかなと感じます。
- もっとスピード感が必要。4年かけて全事業をしても融ごっこになるのでは。早く予算へ反映させ、評価結果を改善に結びつける仕組みやルールづくりが必要。
- 事務事業評価の土俵にも上がってこないゼロ予算で業務を行っている職員は、もはや救済を受けることの無い幽霊でしかない。
- 事務事業評価は、限られた財源の中で、より充実した事業展開をするために実施しているものと認識しているので、評価結果を早く予算へ反映させることが必要。
- 各事業の評価のみならず、以前からの各種課題がより明確になり、課題解決を実行できる（しなければならぬ）取り組みになっていると改めて感じました。それと同時に全職員が同じ方向を目指すことができるチャンスでもあったと感じた。
- 事務事業評価は、限られた財源の中で、より充実した事業展開をするために実施しているものと認識しているので、評価結果を早く予算へ反映させることが必要。
- 各事業の評価のみならず、以前からの各種課題がより明確になり、課題解決を実行できる（しなければならぬ）取り組みになっていると改めて感じました。それと同時に全職員が同じ方向を目指すことができるチャンスでもあったと感じた。
- 事業の半分以上は予算にかかわらず見直しが必要という結果になっており、これまで見直しが必要でも進捗しなかった事業が、事務事業評価を通して見直しの方向性が多少なり具体化されているのではと感じます。
- 気付きを促す職員研修としてはとてもよい取組みだが、大ナタを振るには心情的にも難しい。
- 事業評価そのものの目的にもよるが、評価者としても事業実施者としても、人材育成や政策・事業を学び議論するという点では、この評価のシステムは有効と考えられるが、職員への負担も大きく、町の政策全体の中の一事業としての事業評価であるなら、事業評価自体の研修を行ったうえで専任の職員が行うべきと考える。
- すぐに完璧なものにはならないと思うので、少しずつ PDCA を回すことが必要。丸一日は、なかなか大変だった。
- 職員の意識としては、まだまだ全庁的な取組になっているとは言えず、徹底することも必要。

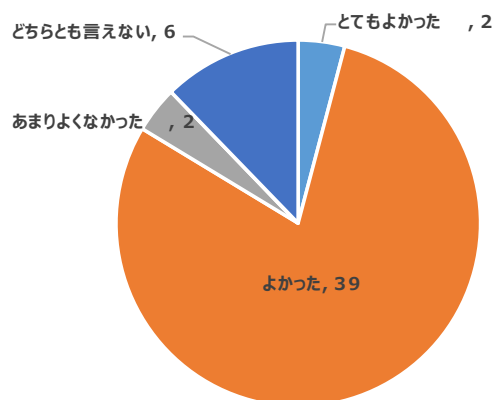
■ 与謝野町事務事業評価アンケート結果（説明者編） ■

回答者 49 人

その1 事務事業評価の参加について

【設問】（1） 事務事業評価二次評価に参加してよかったですか？以下の選択肢にひとつ○をしてください。

- 1 とてもよかった 2人
- 2 よかった 39人
- 3 あまりよくなかった 2人
- 4 よくなかった 0人
- 5 どちらとも言えない 6人



【回答に対する意見】

○よかった、とてもよかった

- 対象事業についての担当者の思いを伝えることができた。
- 懸案事項解決に向かって進めるきっかけとなった
- 事業について改めて考える機会となった。また、事業の課題について意見をいただくことができたため。
- 自己評価（一次評価）の内容を再確認できたこと、また、外部評価委員視点での評価、アドバイス等をいただけたから。
- 自分とは違う視点で意見やアドバイスをもらうことができたから。
- 固定観念を捨て、色々な方向から必要性や課題について考えることができた。
- 評価調書を作る段階では数字を入れて終わりの作業だったが、行革委員に説明することにより改めて事業を見直す機会となった。
- 人事異動で新しい部署に異動となったが、新しい部署の事務事業内容を把握するのに役立ちました。

○あまりよくなかった

- 事務負担と成果を比較して、被評価者としては成果をあまり感じられなかった。
- 準備に相応の時間を要するため。

○どちらとも言えない

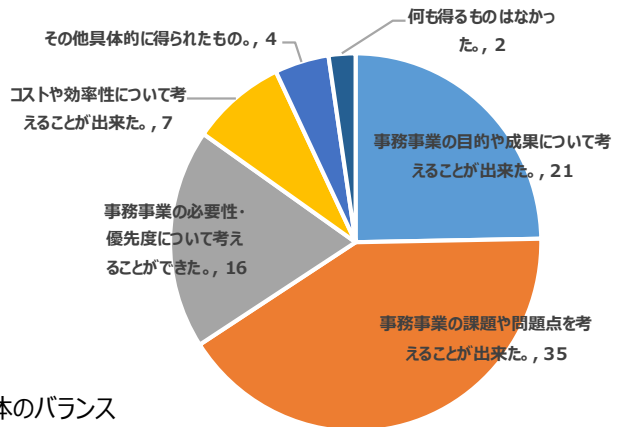
- 頂いた意見は想定の内だったため。
- 自身にとっては、「あっ、そうか。」と学ぶものがほぼなかったため

【設問】（２） 事務事業評価二次評価に参加して得られたことはありましたか？（複数回答可）

- 1 事務事業の目的や成果について考えることが出来た。 21 人
- 2 事務事業の課題や問題点を考えることが出来た。 35 人
- 3 事務事業の必要性・優先度について考えることができた。 16 人
- 4 コストや効率性について考えることが出来た。 7 人
- 5 その他具体的に得られたもの。 4 人
- 6 何も得るものはなかった。 2 人

※5の内容

- 懸案事項解決に向かって進めるきっかけとなった
- 政策が行政の自己満足になっていないか、考えさせられた。
- 説明の難しさを感じた。（勉強になった）
- 個々の事業の評価と全体的な総評価で全体のバランスや偏りを見ることも重要と感じた。



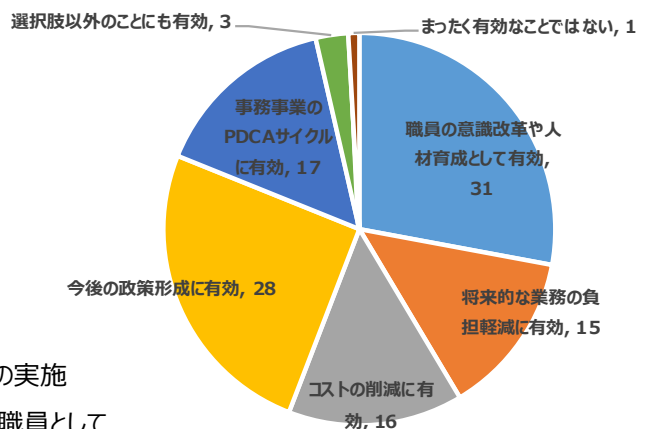
その 2 事務事業評価の有効性について

【設問】（１） 事務事業評価は行財政経営マネジメントにとって有効だと思いませんか？以下の選択肢に○をしてください（複数回答可）

- 1 職員の意識改革や人材育成として有効 31 人
- 2 将来的な業務の負担軽減に有効 15 人
- 3 コストの削減に有効 16 人
- 4 今後の政策形成に有効 28 人
- 5 事務事業の PDCA サイクルに有効 17 人
- 6 選択肢以外のことにも有効 3 人
- 7 まったく有効なことではない 1 人

※6の内容

- 通常、かかわることがほぼない他課の事業やその実施の苦勞を知ることができ、どのように互いに同じ町職員として支援ができるのか考える機会を公務として得ることができること。



- それぞれに有効であるのは当然であるが、活かすこと、活用することに力点を置く必要があると感じる。
- そこに臨む職員の意識に左右されると思います

【回答に対する意見】

- 事務事業について、どのようにすればより効果的な事業になるのか等を考える機会になると思います。
- 前例ありきで事務事業が実施されてきたと考えているので、他者の意見を入れることで変化が起こるのではないかと期待する。
- 実行していくには、職員個々（課として）の本気度が必要と感じた。
- 事務事業の目的を確認し、その成果を振り返ることは重要であるが、日々の業務内でできているかどうか見えにくい中、評価シート作成や一次評価・二次評価を受けることでその意識は少なくとも持てると感じた。
- 計画した事業の検証見直しは、無駄のない効率的な行財政運営には必要。
- 担当課以外の意見を取り入れることで、無駄なものは取り除き、良いものは残す、より良くすることが可能であると思います。
- 課外からの意見による気づきがある。事業が抱える課題解決、現状打破に向けた検討の一助となる。
- 制度の存続、改正又は廃止について、担当課以外の意見を伺え、時代や住民のニーズにあったものに変えることにつながるため。
- 業務を単純に繰り返している場合が多く、他者の視点を入れることで新たな気づきを得ることができ、業務改善にもつながるため。
- 課題については、コスト関係等どの事業にも共通する部分はあると思っており、説明者のみでなく評価者にとっても今後の施策等の上で有効である思う。
- 評価を受けて思わぬ結果に結びつく、ということもなかったため、評価事務による徒労感を感じた。

その3 次年度以降の改善点・ご意見

【設問】（1）次年度に改善すべき点等があれば教えてください。

- リモートでの評価が続くようであれば機器の充実を。
- 評価に値しない事業の選択は避け、労力も最小限化すべき。
- 今年度から職員人件費を記入することになりましたが、人工数の把握が難しく適正に把握できる方法が確立できればと思いました。
- 出来る範囲で事前に質問内容が教えて欲しい。事前に勉強するものの、人事異動等で担当者が変わった場合などは、細かなところまで回答できないことがある。
- 異動した年に二次評価を受けたため、詳細なところまで回答できないことがあった。前任者にも確認できるよう、事前に詳細な質問事項を教えてください。
- 今後について”の内容や検討の時間が多くあると見直しをより促進する効果がでると思います。
- 小さな町なので、すべての事業を同じように評価する過程をとらない方が良い。担当課内等で、廃止等判断できる場合は、手順の縮小が必要。（判断に時間ばかりを要し、コスト削減につながらないから。）

➤事前にシートを配布しているため、最初の事業説明（10分程度？）は不要（無駄）と感じた。各事業で質疑時間の時間切れの感があった。

【設問】（2）事務事業評価に関するご意見・感想がありましたらご記入ください。

- 事務事業評価は「評価」されることに重点を置くと職員のやらされ感につながるとは思います。活用すること意識が向くと利点も見えてくるように感じました。業務改善への活用方法を例示できれば、職員にとって取り組む意義も見えてくるのでは？（本来の事務事業の主旨に合致しているかどうかは不明ですが）
- 評価の手法について、総合評価方式から、採点方式などの検討も必要では。
- 評価シートの記載内容が担当者によってばらつきがある。二次評価対象事業や、決算参考資料掲載事業は年々ブラッシュアップされる可能性はある。提出までに課内確認ができれば解消されると思われる。
- 前任の方から、こういうものと引継ぎをもらい、普段何気なくやっている事務ですが、事務事業評価により改めてその事務の意味や立ち位置等整理することができたように感じます。
- 評価チームによって、評価の視点等に差が出るのではないかと感じました。企画財政課での管理が大変になるかとは思いますが、1事業を複数の評価チームで評価していくことで見えてくることもあるのではないかと思います。
- 担当部署の担当者は、日々の業務の中で、必要な事業として業務を遂行しています。担当部署以外の職員の方々と議論をすることで、別の視点から担当事業を見直すことができます。大いに議論しましょう。
- 昨年度、職員の評価者として参加し、「事業内容の評価」というよりも、普段知ることのできない他課の仕事について、表面的でなく少し掘り下げて知ることができ非常に勉強になりました。若い職員（30代前半）に是非、経験してほしいと思います。
- 事務事業評価の結果が、コスト削減・政策形成等に繋がったと思えば、事務事業評価への姿勢が前向きになる。
- 理事者が「やりたい」と考えている事業で、縮小・廃止の結論に至った場合、担当課が板挟みになってしまうので、たとえ理事者が「やりたい」と考えている事業でも、事務事業評価での結論を軸に次年度の事業の有無を決定しないと、事務事業評価をする意味がない。
- 下半期も継続して事務事業評価をしないのでしょうか？短期間で全事業を終わらせないと意味が無い。
- 事務事業評価を待つ前に各課・各担当者が自発的に事業の見直しして事業の統廃合や予算削減を図る必要がある。
- 今回のコロナ予算で事業の数が増えています。この事業も全て来年度の事務事業評価の対象となるのでしょうか？
- 非常にタイトであるが、町の将来や人材育成などの観点からも、大変重要な事業であると考えます。